

大阪湾漁場環境速報

平成29年3月7日発行

兵庫のり研究所

大阪湾奥部を中心にキートセロスが優占種として大量発生しており、河川水等の影響を受けていた一部調査地点を除き、その海域の表層で栄養塩（窒素・リン）が大きく減少していますが、-10m層では窒素は概ね2~3 μg-at/L台の値でした。それ以外の海域においては珪藻の発生量は少なく、窒素は概ね2~3 μg-at/L台でした。

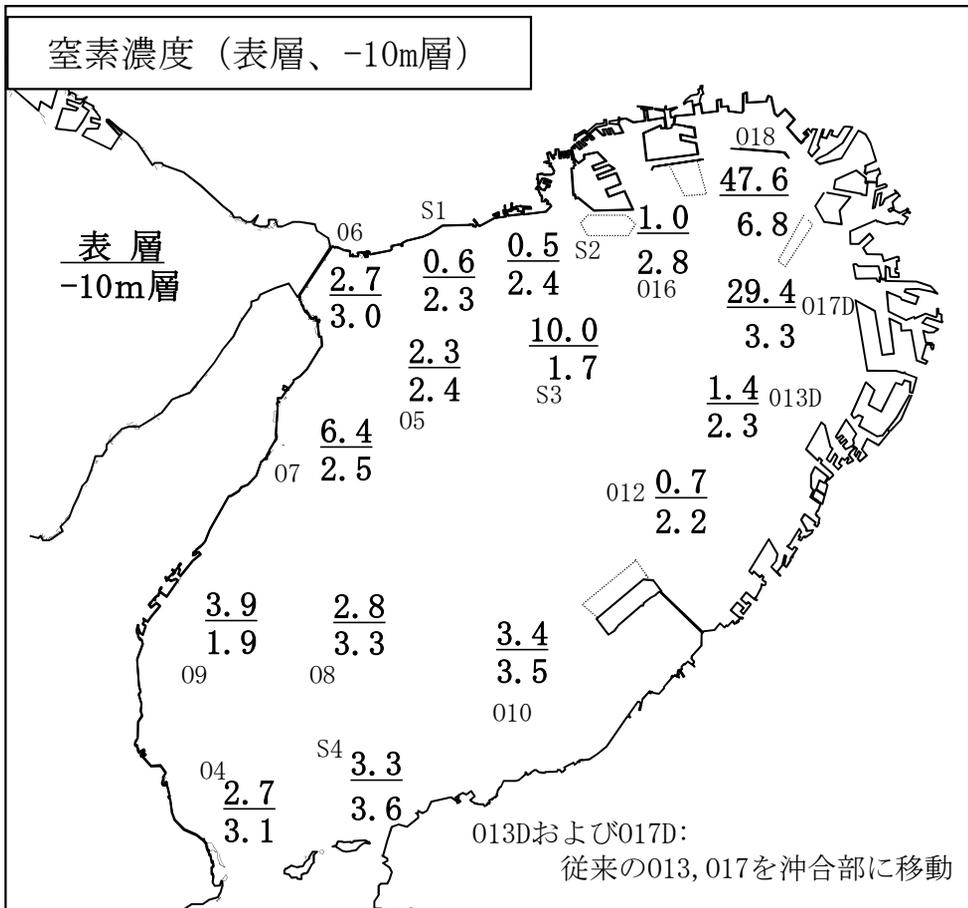
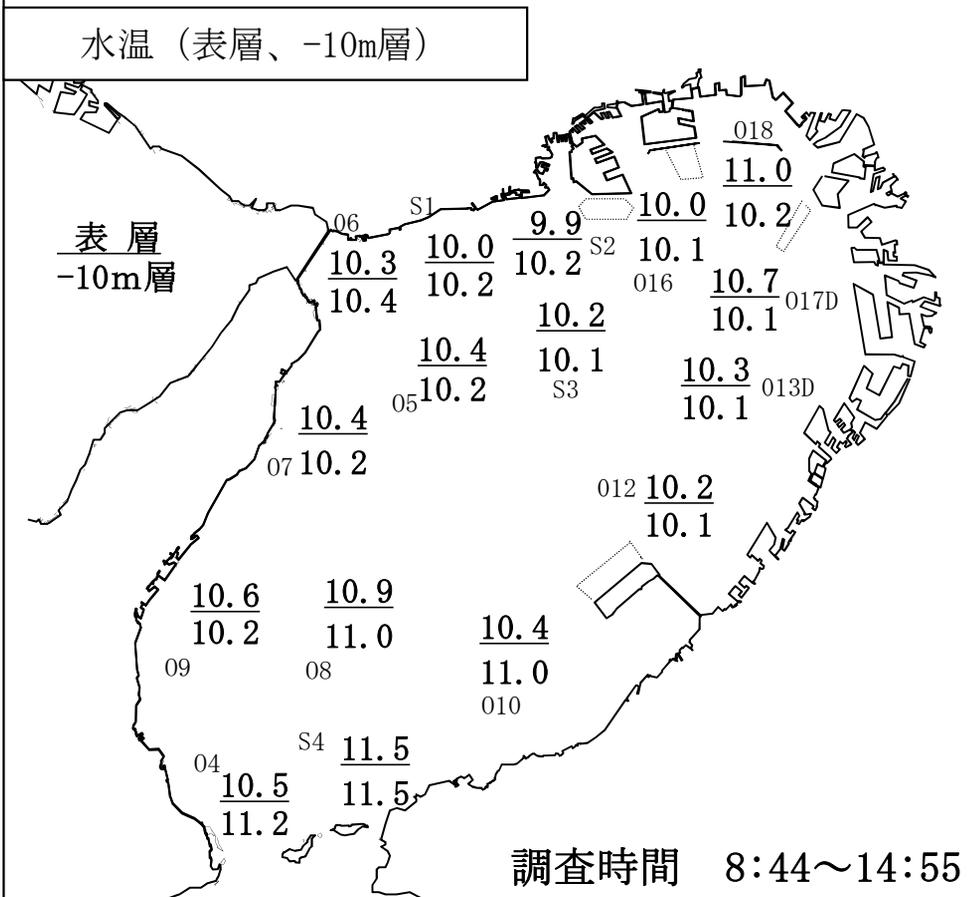
(水温) 表層は湾内10~11℃台で、平均10.4℃。平年比約1.5℃高い。-10m層も平均10.5℃と平年比約0.7℃高い状況。

(塩分) 表層平均30.91psu(平年 31.43)。-10m層平均31.85psu(平年 32.15)。

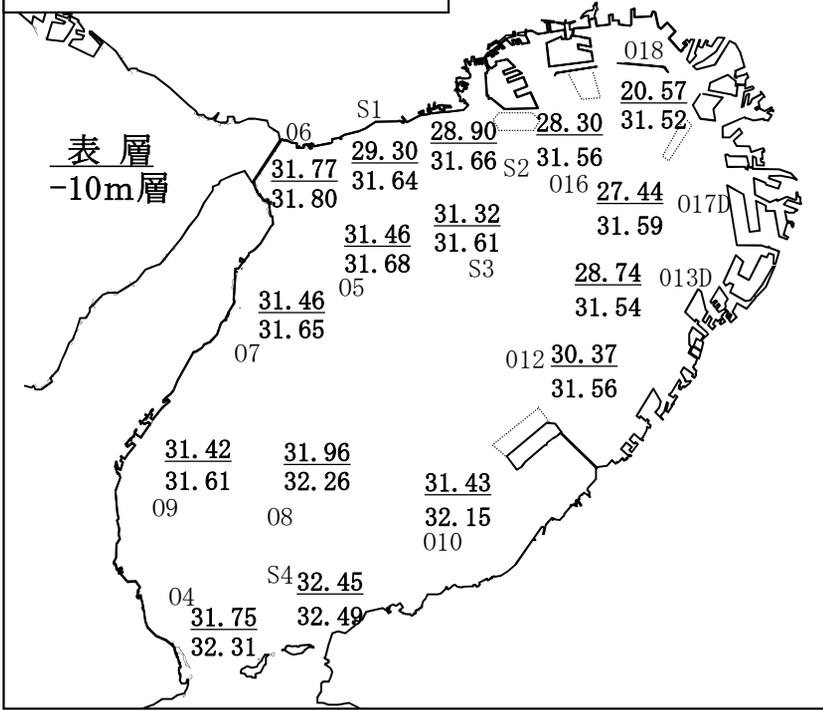
(栄養塩、他) 表層の窒素は平均3.1 μg-at/L、リンは平均0.33 μg-at/L。垂水沖-神戸沖-関西空港南を結んだ線を境界として、その北東域（塩分濃度が30psu台以下）ではキートセロスの大量発生による強い赤潮（黒褐色の海水）が確認され、窒素・リンともに低い値であった。湾奥部ではスケルトネマもやや多く混在している。それ以外の海域においては珪藻は少ない状況。またユーカンピアは全域でほとんど確認されなくなった。夜光虫が全域において見られ、発生量の多い調査地点（S3・07・09など）では窒素の中でアンモニア態窒素の数値が高い。キートセロスによる赤潮は前回2/24大阪湾北部調査で神戸沖や神戸地先東部で確認され、海域は異なっているが今回調査でも見られ増殖が続いている。大きな風波や海水混合による珪藻の沈静化ならびに大阪湾全体での栄養塩上昇が望まれる。

上段 (今回値)	平成29年3月6日調査
中段 (昨年値)	平成28年3月7日調査
下段 (平年値)	3月上旬

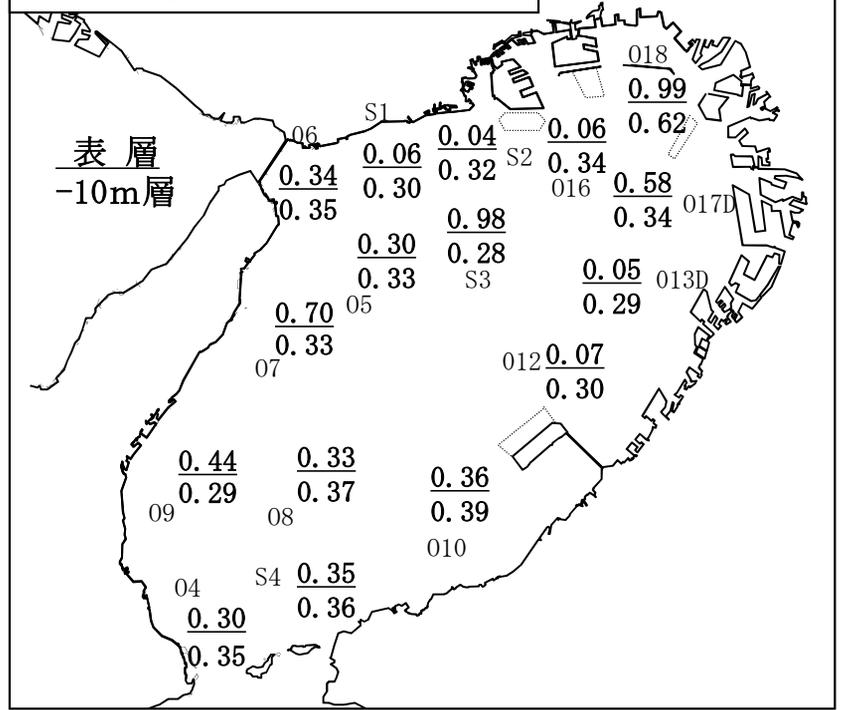
調査地点	水温 (°C)	塩分 (psu)	三態窒素 (μg-at/L)	燐酸 (μg-at/L)
04	10.5	31.75	2.7	0.30
	12.1	32.59	3.6	0.29
	10.8	32.61	3.6	0.33
05	10.4	31.46	2.3	0.30
	11.2	31.50	1.5	0.12
06	9.7	31.98	2.4	0.26
	10.3	31.77	2.7	0.34
07	12.0	28.95	2.7	0.08
	9.7	31.48	3.4	0.24
08	10.4	31.46	6.4	0.70
	11.3	31.72	2.1	0.15
09	9.9	31.89	2.9	0.26
	10.9	31.96	2.8	0.33
10	11.4	31.30	0.8	0.07
	10.0	31.89	2.2	0.23
11	10.6	31.42	3.9	0.44
	11.9	31.82	0.8	0.06
12	10.0	31.88	2.3	0.22
	11.8	30.43	0.6	0.06
13D	9.7	31.11	4.3	0.26
	10.3	28.74	1.4	0.05
14	11.5	29.52	5.9	0.08
	9.4	30.18	6.4	0.23
15	10.0	28.30	1.0	0.06
	12.4	25.47	7.3	0.13
16	9.7	29.27	11.1	0.29
	10.7	27.44	29.4	0.58
17D	11.2	29.26	0.8	0.08
	9.5	28.35	19.5	0.58
18	11.0	20.57	47.6	0.99
	12.1	28.07	0.7	0.10
S1	9.7	23.85	30.2	0.87
	10.0	29.30	0.6	0.06
S2	12.5	28.07	3.3	0.12
	9.7	30.95	4.0	0.22
S3	9.9	28.90	0.5	0.04
	12.2	27.72	1.9	0.09
S4	9.6	30.18	6.1	0.22
	10.2	31.32	10.0	0.98
013D	12.1	29.62	2.3	0.09
	9.9	31.16	3.5	0.20
017D	11.5	32.45	3.3	0.35
	12.1	32.56	3.0	0.22
018	10.6	32.49	3.0	0.30
	12.1	32.56	3.0	0.22



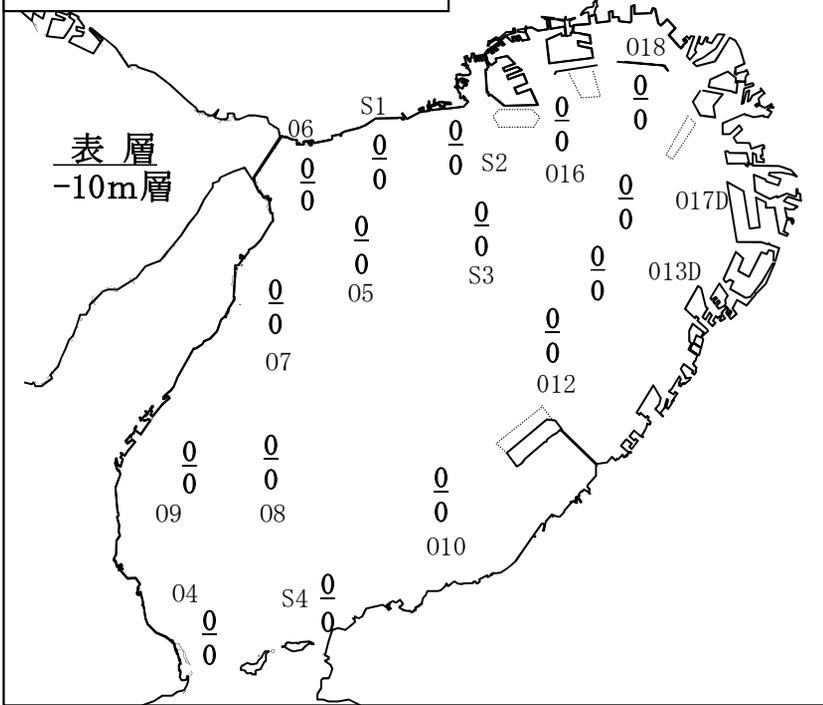
塩分 (表層、-10m層)



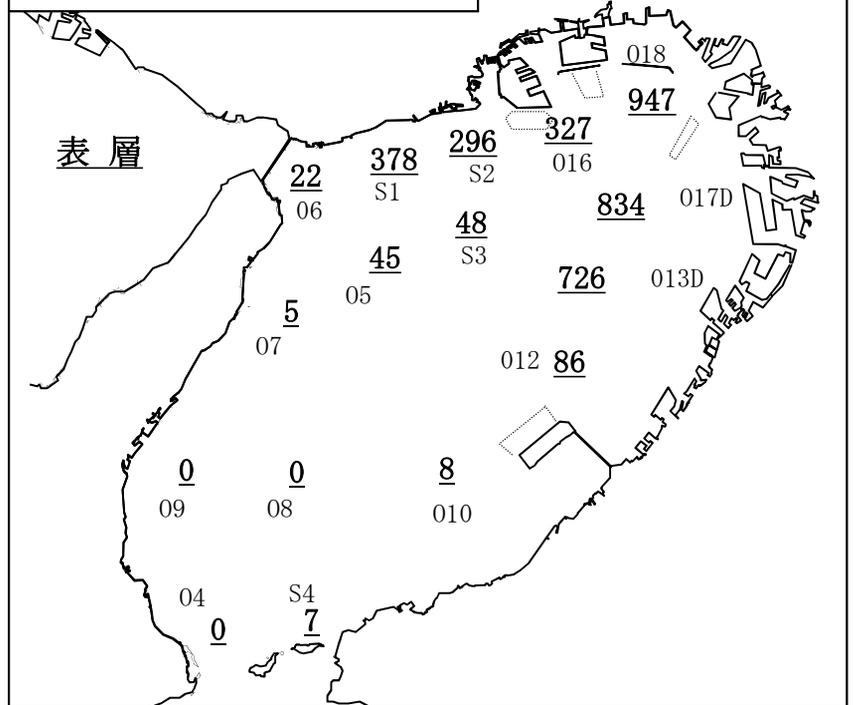
リン濃度 (表層、-10m層)



コシノディスカス (細胞/L)



スケルトネマ (細胞/ml)



ユーカンピア (細胞/ml)

